



No.659

MAGAZINE

2011 10▶11

平成23年11月1日発行（隔月1回発行）



ギネス認定書

山梨県・全館源泉掛け流しの宿・西山温泉慶雲館

特集

- 夏季営業概況調査
- 税制改正、高速道路料金問題、原子力損害賠償に関する要望活動
- 特別連載 那須温泉(2)「那須の伝説」
- わが宿わが街「ギネス認定 開湯以来千三百余年 世界最古の温泉旅館」
- 外客受入れの日々「国を挙げてトコジラミ対策を」



—地球に優しい宿をめざしています—
社団法人 日本観光旅館連盟



Japan.
Endless
Discovery.

温浴施設の清掃方法の改善で省力化

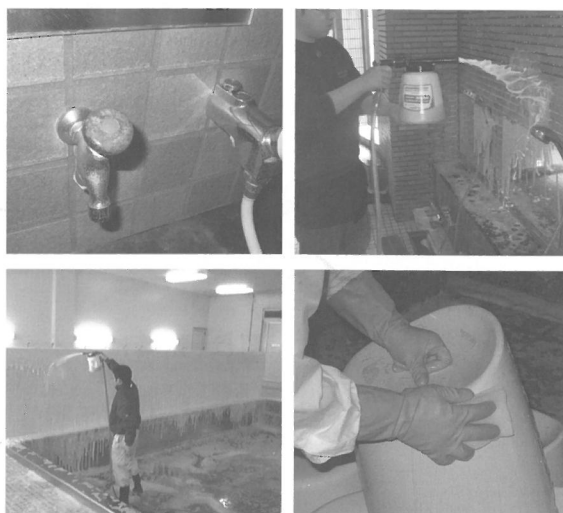
3月の震災以降、ホテル旅館を取り巻く環境はさらに厳しくなっている。震災による直接の影響はもちろん、風評による海外からの宿泊客の激減等あげればきりが無いほどである。経営面でのさらなるコスト削減が求められ、様々な対応策が講じられているが、宿泊施設品質の低下が原因で、客離れをおこしては本末転倒になってしまう。まさに今、ホテル旅館業界はこのサービスの質を下げずにコストダウンをはかるという相反する課題に直面している。この相反する課題の一つとして浴場清掃の問題がある。清掃作業の効率化で人件費を抑える必要があるのだが、美観の向上や臭いの発生防止、さらにはレジオネラ属菌等感染症予防など維持管理上の課題が多く、コストアップの要因になっている。

一つの例として洗い場の悪臭の原因は、排水口の汚れからではなく、壁や床面に付着した石けんや人の皮脂汚れが酸化した際に発生する成分だったりする事が多い。やみくもに排水口を清掃しても問題の解決にはならない訳である。これまで浴場清掃は物理的な方法によるものが多く、清掃方法も適切なものではない場合が多く見られた。浴室の汚れは主に「石鹸カス」と「皮脂汚れ」の2種類で、石鹸カスを落とすには酸性タイプ、皮脂汚れにはアルカリ性タイプが有効である。これまでの浴場洗浄はどちらの汚れに対しても1種類の洗浄剤を日常清掃用として使用して来た。これに対して汚れに応じた2種類の洗浄剤を使い、専用の発泡装置を使用して泡状にする事により、洗浄液が立面やタイル等の床面を覆うため汚れに対してのアタック時間が大幅に増えるため、「一生懸命こする」作業が「軽くなる」作業に変わるのだ。

人件費も、美観も、衛生面も、改善

この洗浄方法を開発した山形市内の洗浄システム会社の開発者の話では「この洗浄方法を導入されたあるスーパー銭湯では1日2時間の清掃作業に13人～14人で行っていたものが、9人で清掃が可能となり、人件費をおおよそ35%削減に成功したお客様がいました。」との事。コストダウン効果が非常に高い事が分かる。勿論、鏡やガラスのウロコが落ちやすくなり、床のヌメリも無くなり、美観的にも改善された。

衛生面においても、洗浄性が高ければ、感染症予防に繋がる。従来、浴槽水中のレジオネラ属菌の検査には約2週間を要し、時間とコストが掛かるものだった。本年3月に浴槽水のレジオネラ属菌汚染リスクの評価方法としてのATPふき取り検査が提案され、その管理マニュアルも出された事で、これにより簡単に迅速な管理が可能となってきた。また、レジオネラ属菌による汚染は浴槽そのものにもあり、洗浄性が上がればこの予防にも繋がる。この浴槽の洗浄性の確認にもATPふき取り検査はうってつけな検査方法である。



ATP+AMPふき取り検査とは

ATP+AMPふき取り検査は、洗浄後の手や調理器具、機械などの表面のATPとAMPの残存を調べる検査方法。ATPとはアデノシン三リン酸、AMPはアデノシン一リン酸の事で、この物質は動物、植物を問わず全ての生き物に存在する。従って洗浄後の検査でATPとAMPの存在が検出されると、そこには微生物や洗浄不足が原因で残っている汚れが付着していることを意味する。この検査には「ホタル」由来の酵素であるルシフェラーゼとルシフェリン、ATP、AMPを反応させ光を出す原理が用いられている。検査は非常に簡単で、検査薬と一体になったルシパックPenの専用綿棒で、洗浄後の手指や器具類の表面をふき取り検査専用の測定器「ルミテスターPD-20」で測定するだけ。汚れの度合いを光の量で表示してくれる。測定も約10秒と短時間。専門家も専用の試験設備も必要なく、購入して直ぐ誰にでも使える検査方法だ。

より良い清掃を効率よく行い、美観の向上、消臭やレジオネラ属菌等の予防を行うことで「質を下げずにコストダウンを図る」ことも一つの方法ではないだろうか。

この洗浄方法に関心のある方は下記のメーカーへ問い合わせさせて頂きたい。

「ハイジェニックスフォームクリーニングシステム」のお問い合わせ先
ケミカル産業株式会社
山形県山形市江俣4-4-28 TEL:023-681-0478
URL <http://www.eco-chemical.co.jp>



問い合わせ先 **キッコマンバイオケミファ株式会社** TEL.03-5521-5490

E-mail : biochemifa@mail.kikkoman.co.jp URL : <http://biochemifa.kikkoman.co.jp/>